

企業における D&I 推進とその魅力

——就活生の視点から

宮川 颯太

【要旨】

本論文では、企業におけるダイバーシティ&インクルージョン（D&I）の推進とその魅力について、就活生の視点から考察した。目的は、国際的に「多様性」が求められるなか、企業の D&I 推進は重要な課題となっているが、就職活動を控えた大学生は D&I にどの程度興味を示しているのかを明らかにしようというものである。大学生を対象としたアンケート調査を実施し、就活生が D&I に対してどのような認識を持っているかを分析した結果、「D&I が推進されていることは重要である」と考える学生は 86.2%であるが、「D&I が進んでいない場合、志望度は変化するか」に対しては「変わらない」と回答した学生は 52.3%であった。つまり現状では、就活生にとって D&I はさほど魅力的には捉えられておらず、まずは企業内部からの浸透が必要な段階であることが浮かび上がった。

先行研究によると、企業が D&I を推進するためには、内部からの浸透のほかに女性の意識改革も重要であるという。企業内部に D&I を浸透させるためには、中間管理職の人々から理解と支持を得ることが必要であり、管理職向け研修などのサポートを実施することで現場を変えるための行動を起こすよう促すことが効果的だと考えられる。また、女性の D&I への関心を高めるには、女性自身の昇進へのモチベーションを高める必要があることが分かった。先行研究より、「企業は D&I に取り組む姿勢は見せているが、意識は高まっているのに対して実際に行動に移せている管理職が少ないため、現場での D&I が停滞してしまっていること」が要因であると考えられる。

以上の課題を解消することで、企業内で D&I が推進され、より多様な人材が活躍できる就活生から見ても魅力的な企業となるのではないだろうか。